

第7回ダムWG (2004. 10. 18開催) 結果報告

2004. 10. 20 庶務発信

開催日時： 2004年10月18日(水) 15:00~17:00
場 所： カラスマプラザ 21 8階 大会議室
参加者数： WGメンバー委員 17名、 WGメンバー外委員 3名
河川管理者(指定席) 30名、 一般傍聴者(マスコミ含む) 127名

1. 決定事項

- ・ダムWG作業部会のメンバーが決定した。メンバーは以下の通り。今本委員、榎屋委員、川上委員、水山委員、荻野委員、田中哲夫委員、本多委員、三田村委員、西野委員、寺川委員。

2. 審議の概要

①河川管理者からの説明と意見交換

○資料1-1「琵琶湖水位と瀬田川洗堰について」に関する意見交換

河川管理者より前回のWGで委員から頂いた質問に対する回答として、資料1-1「琵琶湖水位と瀬田川洗堰について」を用いて説明が為された。

○資料1-2「木津川上流上野地区の治水対策案について」に関する意見交換

河川管理者より資料1-2「木津川上流上野地区の治水対策案について」を用いて説明が為された後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り(例示)。

- ・次回のWGでダムの効果について説明したいのことが、その前に、現在の岩倉峡の流下能力や直轄区間以外の河道掘削の効果について説明をお願いしたい。
- ・検討の前提となった条件やバックデータがない。きちんと揃えてほしい。
- ・10洪水の氾濫量をトータルして比較検討しているが、この方法が適切なのかどうか疑問だ。
- ・引き伸ばした10洪水それぞれの島ヶ原地点での流量はどのようになっているのか。
←手元にデータを持ち合わせていないので、後日、お示ししたい(河川管理者)。
- ・複合案の検討では、投資効率の高い3つの案(上野遊水地掘削、新設遊水地、新設遊水地掘削)以外の対策を組み合わせた複合案の検討もするのか。
←投資効率の高い3つの案の複合案を検討したいと考えている(河川管理者)。
- ・ダムの効果の比較検討する際には、ダムの追加予算も含めた検討をお願いしたい。
- ・いずれの案も「地権者との交渉期間」が不明となっているが、漁業権等を考慮すると、河川整備計画が対象としている20~30年では、交渉はまとまらない。

②拡大学習会の報告と今後のダムWGのスケジュール

今本ダムWGリーダーより、午前中に開催された拡大学習会での検討内容について報告が為された後、ダムWGの検討スケジュールについて説明が為された。

○拡大学習会での主な検討事項

1) 想定降雨について

実績の降雨とするのか、それとも、実績の総降雨量の降雨パターンを取り入れた仮想降雨を既往最大規模の洪水とするのか。検討会では結論が出ず、先送りすることとなった。

2) 堤防強化と河道流量

堤防強化は、ダムの是非にかかわらず、絶対条件として整備を進めるよう求める。しかし、堤防

強化を前提とした検討は危険なので、河道流量は「天端－余裕高」で想定することとなった。

3) ダムの是非 建設見直しを含めた検討を行っている。委員の中では、河川整備計画の目標をダム以外の方法で達成できるなら、それでいくべきだという合意はとれている。

○ダムWGの検討スケジュール

- ・作業部会でたたき台を作成して、第35回委員会(11/16)および各地域部会に提出し、各委員からご意見を募集する。ダムに対する最終的な評価は、1月22日の委員会で報告する予定。

3. 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者4名より発言があった。主な意見は以下の通り(例示)。

- ・地質調査報告書を解析した結果、川上ダムサイト付近には300mに及ぶ活断層があることがわかった。ダムWGでは、活断層に注目して検討し、水資源機構に詳細な説明を要求して頂きたい。
 - ←活断層調査と地質調査は、非常に重要であり、長い時間をかけて調査してきている。その結果、ダムサイトおよびダムサイト周辺には活断層はないと判断した。実証的証拠も含めて、HP等でしっかりと説明したい(河川管理者)。
- ・「引き伸ばし降雨」を用いた検討は非科学的だ。しかも、これまで木津川上流の住民には5313型洪水で説明してきたにも関わらず、なぜ今さら変更する必要があるのか。
- ・上野遊水地の関係者は、近所の住民でさまざまな議論をした結果、川上ダムと上野遊水地に対応していくということで、集団移転までしてきた。319mmという既往最大の降雨が、今後も、いつどういふ形で降るか分からない。とても不安だ。
- ・私は上野遊水地の実現に向けて努力してきた。今回、河川管理者から治水対策案として「上野遊水地掘削案」が出ているが、地権者は絶対にこの案を承諾しない。上野遊水地のために先祖代々の土地も提供した。いまさら川上ダムをつくらないということになれば、地元の方々にどのように説明すればいいのか。地元住民の気持ちも考えた上で、検討をして欲しい。
 - ←現在の遊水地は10年に一度の確率で発生する洪水(1/10確率)に対応するかたちで計画されている。この安全度を下げるのではなく、1/20確率、1/30確率にしていきたいと思っている(ダムWGリーダー)。
- ・新規水需要はゼロとして検討を進めるとのことだが、年明け頃に水需要の精査確認結果が出てきた場合、どのように対応するのか。また、姉川・高時川川づくり会議で示された滋賀県の治水対策案をどのように扱うのか。
 - ←水需要の精査確認結果が出てくれば、検討をしたい。河川管理者には、時間的な余裕を持って出して頂きたい。滋賀県の治水対策案についても検討するつもりだ。必要があれば、滋賀県に説明を求めることもあるだろう(ダムWGリーダー)

※このお知らせは委員の皆様主に決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。